

## BLから表現規制を考える。

\*このチラシは、同人誌『腐男子にきく2』のために、吉本たいまつがちーけんさんに行ったインタビュウのうち、表現規制に関する部分をまとめたものです。ここに書かれた情報は、インタビュウが行われた2010年7月中旬現在のものです。

\*吉本たいまつ(吉)のページはこちら。

Re-Ionisation

<http://www.picnic.to/~taimatsu/>

\*ちーけんさん(ち)のブログはこちら。

ネクラで眼鏡でキモオタな優等生は、受け

るとイイよー

<http://ytsuk.blog11.fc2.com/>

### 【じわじわ進む表現規制】

吉：ちーけんさん、表現規制の問題に関しては、ツイッターでかなり突っ込んだ意見を表明されていますね。

ち：この問題には98年頃から関わっています。インターネットが本格的に普及し始めたとき、いわゆる風営法が改正されます。ネットの世界に、警察が規制に乗り出してきたん

です。わいせつ画像の規制をうたって、ネットでの表現の自由を制限しようという動きが、警察から起こってきます。その中心になったのが、今回みんなの党から出馬した、後藤啓二弁護士です(注：落選)。当時、警察庁で生活環境課の理事官として法案作成に当たった後藤氏は、「インターネット上のポルノの氾濫から子供を守りたい」と説明していました。どこかで聞いたような台詞ですが(笑)。その後盗聴法など、表現の自由を規制しようという国の動きに対しては、ずーっと

反対の立場から関わってきました。そこで、最近の表現規制の動きに慌てている方には、「だから10年前からこうなるって言ったじゃない、マンガを読んでいる人にもさんざん言ってきたのに、あるとき応援してくれなかったじゃない」と言いたいですね(笑)。

吉：12年前からですか。マンガを読んでいる人は、表現への規制がじわじわと進んでいることを、知らなかったんですね。

ち：マンガ業界の立場から表現規制に反対する方は、マンガに重点を置いていますよね。それは当然なんですけど、盗聴法や共謀罪、ネット上での表現規制や携帯のフィルタリングなど、様々な表現規制の問題の一つとして、マ

ンガの表現規制の問題も存在しています。マンガだけで独立してしまうと、運動としては弱くなってしまうと感じます。

また、現在の反対運動は、「そもそも表現を規制すること自体がおかしい」といった、「そもそも論」を掲げることが多いですね。ですが警察は、犯罪を抑制しようとして表現規制を進めるのではなく、規制をすることで自分たちの権限の拡大を目指しているだけです。ですから規制なんか無駄だってことは、向こうはわかりきってやっっているんですね。そこで「そもそも論」を出しても、痛くもかゆくもないんです。

### 【BL側の備えは?】

ち：そしてBLについて考えると、今までのBLもワキが甘すぎました。

吉：私も警鐘を鳴らそうと思ったんですが、女性側から「画像を上げるのはやめろ」って声が拳がっちゃうんですね。そんなんじゃないんだ、規制の現実がどのようなものか、ちゃんと見せないと意味がないと思うんですよ。

ち：描かれているものは、現行法ではわいせつ物、とまでは言えませんが、有害指定されるところに踏み込んでいましたよね。

吉：BLの中には、実質無修正の作品もあるんですよ。これは突っ込まれたら絶対引つかかるぞ、と思いますね。

ち：BLについては、誰も何も言っていなかったんじゃないですか。有害指定される可能性がある、危ないと言った人すら、ほとんどいなかった。残念ですが、自業自得の面もあったかもしれない。それに反対派の人たちの考えにも、おかしいなと思うこともあります。もともと大切なのは、表現の自由を守ることです。ですがそれが漫画家を守る、雑誌を守る方向にすり替わってきている面があるんじゃないでしょうか。「マンガ論争」の昼間さんと、たいまつさんが、雑誌に修正が加わった例を示した画像を、ネットに上げましたよね。ところがそれを下げさせようとする声も挙がりました（注：『d rap』（コアマガジン）5月号は、大阪府の有害図書指定を受けた。指定後に出た7月号は、性行為のシーンが大きく修正されていた。吉本たいまつはtwitpicに、修正後の画像を1カット投稿したが、強い要請を受け、3時間ほどで画像を削除した。）。

そのとき数人の作家さんとやりとりしたのですが、編集部と相談して落とすところを探

している、エロは減らすことになりそうです、と言った方がいらつしやっただけです。おいおい、最初から白旗かよ、と思いますね。雑誌がなくなったら困りますから、という理由なんです。それでいいんでしょうか。極論すれば、雑誌がなくなっても、同人誌などの代替手段はあるはず。それに表現の自由については、一番戦わなきゃいけないのは作家さんじゃないでしょうか。

吉：もう一つ、編集サイドの問題がありますよね。修正したのは、苦渋の決断なのかもしれない。

ち：今回おかしかったのは、『d rap』の修正問題で、編集部からアナウンスがないことです。読者に何も言わずに、あれだけ大きな修正を入れて、その後なんのアナウンスもなしとは、不誠実ですよ。会社や雑誌を守らなきゃいけないのは分かるんですが。

吉：そうして黙っていることって、問題の先送りにしかならないですよ。

ち：まったくです。今までもずっと目をつぶってきたわけですよ。先送りされてきたものをさらに先送りにする。ここで何とかしないと、ずるずる負けですからね。

### 【BLも決断が必要では】

吉：ですから成年マークをつけるなどの対策をしないといけないでしょうね。

ち：成年マークは読み手にとってもショックでしょう。またBLはエロだけじゃないからいいんだ、という意見もあります。ですがエロ描写がある以上は、考えなきゃいけないことです。私自身はBLにおけるペニスの描写はわいせつ物だと思いませんが、現行法制でわいせつ物と判断される可能性がある以上、なんの対策も取らないというのは、それこそあり得ないことだと思います。

吉：BL業界は、規制に対する自衛も怠ってきただけじゃないでしょうか。

ち：今までの経験から考えると、警察は今年中にBL作家、さらにはBL出版社の社員を逮捕するんじゃないかと思うんです。それは今までずっと警察がやってきた、見せしめに逮捕して、影響力を強めるという手法です。そういうことになってほしくないですが、編集部はそれに対する備えをしているんでしょうか。そして今回の編集部のやり方を見ると、もし逮捕になったら、雪崩をうってエロ表現をなくすそうですよね。

吉：朝チュンばっかりになりそうです。

ち：BLはエロ表現が含まれていて成り立っていると思います。そこで声を大にして言いたいですね。エロ抜きのBLでいいんでしょうか？もしそれが生き残ったにしても、そんなものって、果たしてBLなんですか？と。実際『d r a p』の指定後は、各誌めつきりエロ描写が減ってるように感じますし。

吉：加えて、読者にわからないように、徐々にエロ表現を減らしていく動きが起こりそうですね。

ち：読者に分からないように表現の内容を変えてしまうなんて、まさにあり得ない話です。それは作家さんに対しても、そうして変えられてしまったものは、本当にあなたの表現物なのですか、と聞きたいですね。エロを描けるけど描かないというのと、エロそのものが禁じられるというのは、天と地ほどの差があります。表現規制の問題は、BL表現を根本的に変える可能性・危険性を持っているんです。

### 【考えられる対策は？】

吉：となると、どういう対策が取れますかねえ。政治家に陳情するとか、団体を作ってロビー活動をするといった手がありますが。

ち：それはその通りなんですが、最終的には、

国会や都議会で多数を取るしかないんですよ。今まで表現規制の問題はほぼ全敗で、唯一勝ったのが、共謀罪を最終的に廃案にしたことくらいです。これは民主党が多数を取ったから可能になったことで、5年くらいずつと継続審議と廃案を繰り返していたものです。直接戦うには、議会で多数を取るしかないんです。盗聴法の反対運動の際、宮台真司先生が「大事なものは永田町と霞ヶ関で反対の人間を増やすこと」と言われてましたが、その意味では、現在の非実在都条例の反対運動は、都議会議員に的を絞った最大限効果的なものだと思います。ただ、実際の状況は決して盤石ではないのはご存じのとおりです。

他の可能性があるとするれば、規制賛成派のキャンダルを見つけて、追い落とすことですね。ですがこれも成功するとは限りませんし。本当に先行きは暗いです。ぶっちゃけもう表現規制は、負けるなど思っています。というか、今までずっと負けてきたんですから(苦笑)。「ポルノから子供を守るため」といったお題目に対抗するのは並大抵ではありませんが、やれることはなんでもやってみようと思います。正直、厳しいですね。

吉：そして今回、民主党が参院選で敗北してしましました。

しましました。

ち：今回の敗北は、いろんな意味でキツイです。民主党の政治がベストとは思いませんが、表現規制に関しては、右傾化が極端に進む自民党に比べると、民主党が多数を取ってくれるのは本当に大きいですからね。

吉：民主党がダメだからという理由で、単純に自民党やみんなの党に流れた人もいるようですが、表現規制に関しては、きちんと考える必要があると思いますね。BLを楽しむ人にとっても、政治はまさにいま重要な問題で、戦わなければならない問題なんです。

ち：ですから一人一人が、「できることをやる」ことが大切です。署名を集めてもいいし、ブログで書いてもいいし、議員に電話してもいい。できることは必ずあるんですね。自分で行動しなかつたら、5年後にはBLを本当に読めなくなりますが、という状況なんです。吉：今まさに分水嶺ですよ。ではBLの読み手として、できることってなんでしょう。

ち：やっぱり有権者として動くことですね。なんといっても【選挙に行く】ことです。BLを読み続けたいなら、議員に電話でもメールでもしろ、仲間を増やしてあげてください。後はブログで表現したりって手があります。

すけど…難しいですね。あとは編集の姿勢をよく見ていく、という手はありますね。編集サイドは企業の論理で動くのは仕方ないですが、負けていくのはそこからなんです。作り手側がちょっとずつ譲歩していくと、読み手としてはお手上げになっちゃうわけです。

吉：最後の砦としてはコミケがありますね。コミケは自分たちの場を守ろうとすごい努力をしています。そのためにはおたく業界全体で表現規制に反対しなければならぬし、戦略を立てていかなきゃいけない、としています。コミケ中枢部にはそうした志向が明確にあるようですね。

ち：それは心強いですね。我々は生まれて初めて政治の季節に巻き込まれちゃったわけです。コミケの人たちは昔から不偏不党だったわけですが、それでもやらなきゃいけないときはありますからね。それに商業BLがなくなくなったことを考えるんですが、最後の砦は同人誌しかないんですよ。

吉：そこで重要になるのが、同人誌が出せる「場所」ですね。コミケは会場がなくなったら開催できなくなっちゃいます。コミケも実は非常に脆弱なんですよ。

ち：会場の問題は大きくって、都の施設で

のイベントで、年齢確認が徹底されるようになったことがあります。貸し出す側の姿勢によって、イベントが中止される可能性もあります。もし本当に商業が負けて衰退したときでも、必ず揺り戻しがあると思うんですが、そのときに同人誌を売る場所がないとやばいですよね。

### 「おたくもまた、政治的な存在へ」

吉：そうなるとトータルな戦いが必要ですね。おたくも政治的存在になってるんですね。

ち：先行きは暗いですよ。本当に暗いです。こうなることを予想させる動きはあつたんですよね。ですが規制の動きを、出版界は見逃しすぎたように思いますよね。昔みたいにネットがなくて、出版社が強い影響力を持っていたときなら対抗できたんですが、今は出版社のパワーも落ちていきますから、対抗できないんですね。暗いなー。本当にBLがなくなるかもしれないから、これから何を頼りに生きていけばいいのか…。

吉：できることをやるしかないですよ。一番よくないのは、やらないまま負けることですよ。

ち：今唯一の救いは、都議会で民主党が第一

党になっていることだけですよね。

吉：それも藤本由香里さんがあそこで声を上げていなければ、もう通っちゃった。そして条例ができてしまったら、その条文で判断されちゃうんですよ。つくづく思います。腐男子も腐女子も、もう政治には無縁じゃいられなくなっちゃいましたね。

ち：まさに政治の季節です。ずっとおたくは非・政治的であることが特徴でしたが、なぜかという、権力がそこまで我々に注意を払っていなかったからですよ。今は権力に目をつけられてしまったので、政治意識を持たないといけないですよ。

ただ豊島公会堂で集会が開かれた（注：2010年5月17日に規制反対派が集会を開き、会場は満員になった）とき、意外と若い人が多かったの、いい傾向だなと思いたね。若い人にとってはBL以外の楽しみもあるから、切実じゃないかもしれないですが、ぜひ考えてほしいですね。

\*このチラシの文責は吉本たいまつにあります。ご意見、間違いの指摘などは

taimatsu@mars.dti.ne.jp

までお寄せください。